

[パネリスト]

Anna Zielinska-Elliott (ポーランド)

ポーランドのワルシャワに育つ。ワルシャワ大学で日本語言語学を学んだ後、東京外国語大学に留学。日本に留学中の1987年に村上春樹の作品に取り組み始める。1995年に初の村上春樹のポーランド語訳書となった『羊をめぐる冒険』により村上作品をポーランドの読者に紹介し、翻訳賞を受賞。その後も短編に加え、3冊の村上作品、三島由紀夫『金閣寺』、吉本バナナ『キッチン』等を翻訳。1993年からアメリカに在住、大学で日本語の教鞭を取り、翻訳者としても活躍。

Dmitry V. Kovalenin (ロシア)

1966年ロシア、サハリン島生まれ。作家、ジャーナリスト、日本語翻訳者。1988年ウラジオストク極東国立総合大学卒業。新潟西港勤務を経てモスクワでフリーの作家・通訳者となる。2003-04年東京大学にて「村上春樹の国際的受容とロシアへの影響」をテーマに研究。翻訳書に俵万智『サラダ記念日』、村上春樹『羊をめぐる冒険』『ダンス・ダンス・ダンス』など多数。

Jay Rubin (アメリカ)

1963年シカゴ大学極東研究学士号取得、1970年国木田独歩に関する論文で日本文学博士号取得。シカゴ大学、ワシントン大学、ハーバード大学で教鞭を取る。主な翻訳作品は国木田のほか夏目漱石『三四郎』『坑夫』、芥川龍之介『羅生門他17作品』、村上春樹『エレファント・パニッシュ』(Alfred Birnbaum共訳)『ねじまき鳥クロニクル』『ノルウェーの森』『神の子どもたちはみな踊る』等。

Lai Ming-Chu 賴明珠 (台湾)

1947年台湾生まれ。1969年中興大学農業経済学科卒業。研究助手を経て、広告会社のコピーライターになる。1975-78年千葉大学園芸学部農業経済研究室に留学、鈴木忠和教授の指導を受ける。1985年より20年間で約30冊の村上春樹の作品を翻訳し、中国時報出版社より出版。

沼野充義 (ぬまの・みつよし)

1954年東京都生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科スラブ語スラブ文学講座教授。専門は、ロシア、ポーランド文学。東京大学文学部卒業、ハーヴァード大学大学院修了。2002年、『徹夜の塊』でサントリー学芸賞。2004年、『ユートピア文学論』で読売文学賞。

藤井省三 (ふじい・しょうぞう)

1952年東京生まれ。東京大学文学部教授。中国・台湾・香港の現代文学を専攻。著書に『魯迅事典』『中国映画』『現代中国文化探検』『中国見聞一五〇年』『20世紀の中国文学』など。現在、4カ年計画で「東アジアと村上春樹」の国際共同研究を続けている。

[司会]

望月哲男 (もちづき・てつお)

北海道大学スラブ研究センター教授。専門は文学、ロシア近代文学、ロシア文化思想。著書に(共編)『スラブの文化』(弘文堂)(1996)、(共著)『現代ロシア文化』(国書刊行会、2000)、『ドストエフスキー・カフェ』ユーラシア・ブックレット No.81 (東洋書店、2005)など。